



For Immediate Release

モルガン・スタンレー

**2004 年度第 2 四半期の純利益は 12 億ドル、
株主資本利益率は 18.4%**

[ニューヨーク、2004 年 6 月 22 日] モルガン・スタンレー(NYSE:MWD、以下、同社)は本日、2004 年度第 2 四半期(2004 年 3 月 1 日 - 5 月 31 日)の純利益が 2003 年第 2 四半期から 104%増、2004 年度第 1 四半期実績とほぼ同水準の 12 億 2,300 万ドルになったと発表した。希薄化調整後 EPS(一株当たり利益)は前年同期の 0.55 ドル、前期の 1.11 ドルに対し 1.10 ドルとなった。株主資本利益率(普通株式)は年率換算で 18.4%だった。

第 2 四半期決算には、航空機ファイナンス事業に関連する 1 億 900 万ドルの税引き前資産減損費用が計上されたが、これは純利益を 6,500 万ドル、希薄化調整後 EPS を 0.06 ドル、年率換算した株主資本利益率(普通株式)を 1.0%押し下げた。2003 年第 2 四半期決算では 2 億 8,700 万ドルの税引き前航空機減損費用が計上され、純利益を 1 億 7,200 万ドル、希薄化調整後 EPS を 0.16 ドル押し下げた。

第 2 四半期の純収入(総収入から金利費用と貸倒引当金を差し引いた金額)は、前年同期比 32%増、前期比 7%増の 67 億ドルとなった。非金利費用は、前年同期比 17%増、前期比 12%増の 48 億ドルとなった。

業績のハイライト

- モルガン・スタンレーは 12 億ドルの純利益を計上、株主資本利益率は 18%となった。
- 法人・機関投資家向け証券業務では、顧客主導による高い伸び、市場シェアの上昇、堅調なトレーディングが続いた。債券業務は過去最高の四半期収入を記録した。
- 総預り運用資産は 5,000 億ドルだった。¹ リッパー・ランキングにおける同社の資産運用ファンドのパフォーマンスは上昇した。
- 6 月初旬にモルガン・スタンレーはバーラ社の買収を完了し、顧客に世界的なリスク管理サービスを提供する能力を高めている。

モルガン・スタンレー会長兼 CEO のフィリップ・J・パーセルは次のように述べた。「第 2 四半期も非常に好調な業績が続き、上半期の純利益は 24 億ドルに達した。すべての業務分野において堅調であったが、特に法人・機関投資家向け証券業務は過去最高に近い収入を達成し、引き続き市場シェアを伸ばした。幅広い収入源と顧客重視の戦略が奏功し、長期にわたって強固なポジションを維持する上での基盤を築くことができた」

2004 年上半期の純利益は、前年同期の 15 億 400 万ドルを 63%上回る 24 億 4,900 万ドルとなった。希薄化調整後 EPS は 2.21 ドルと前年同期比 61%増加した。純収入は同 23%増の 129 億

ドル、非金利費用は同 12%増の 92 億ドルだった。年率換算した株主資本利益率(普通株)は 18.8%となった。

¹ 5,000 億ドルの預り運用資産の内訳は、資産運用業務が 3,840 億ドル、個人投資家向け証券業務が 1,030 億ドル、法人・機関投資家向け証券業務が 130 億ドルである。

法人・機関投資家向け証券業務

法人・機関投資家向け証券業務の税引き前利益²は 11 億 3,400 万ドルと、2003 年第 2 四半期実績を 184%上回った。債券業務が過去最高の収入を記録し、株式業務と投資銀行業務が堅調な業績を上げたことが寄与して、純収入は 47%増の 39 億ドルとなった。

- 債券のセールス&トレーディング業務の純収入は、前年同期比 43%増の 18 億ドルとなった。為替と金利デリバティブが寄与して、金利・為替商品の収入は過去最高を記録したが、これは良好な取引環境と顧客取引の活発化によるものである。コモディティー業務は、エネルギー市場における供給の逼迫と需要の拡大が価格とボラティリティを押し上げたため、過去 2 番目に好調な四半期となった。クレジット商品の収入は、高利回り債と証券化商品の減収を投資適格商品の増収で補いきれず、小幅減少した。
- 株式のセールス&トレーディング業務の純収入は、デリバティブ商品と現物株取引の増収が寄与して前年同期比 29%増の 11 億ドルとなった。デリバティブ商品は顧客取引の活発化が寄与し、現物株取引の増収はグローバル市場での取引高の増加が追い風となった。プライム・ブローカレッジ業務の増収も株式のセールス&トレーディング業務の増収に寄与した。
- アドバイザリー業務の収入は、同社の取引完了ベースの M&A 取扱高に占める市場シェアがほぼ倍増したことを受けて、前年同期比 130%増の 3 億 2,400 万ドルとなった。業界全体の取引完了ベースの M&A 取扱高は同 3%増加した。³
- 引受業務の収入は前年同期比 77%増の 5 億 6,700 万ドルとなった。株式引受業務の収入は、業界全体の株式引受業務の急増を背景に、2 倍以上となった。債券引受業務の収入は、グローバル市場におけるシェアを前年同期の 7%から 8%に伸ばしたことを受けて、51%増加した。³
- 年初来(暦年ベース)では、世界の株式および株式関連証券の引受高で第 1 位(シェア 14%)、世界の新規株式公開(IPO)の引受高で第 1 位(16%)、世界の公表ベースの M&A 案件取扱高で第 3 位(27%)、世界の債券引受高で第 3 位(7%)であった。⁴
- 自己勘定による投資収入は前年同期比の 4,400 万ドルから 1 億 3,600 万ドルに増加した。第 2 四半期の収入は、主に不動産および自己勘定の投資業務、さらには TradeWeb の持ち株売却益によるものである。
- 非金利費用は、純収入の増加に伴う人件費増加、業務の活発化に起因するブローカレッジ & クリアリングおよび専門的サービス費用の増加により、23%増の 28 億ドルとなった。この費用増加は今期の航空機減損費用が前年同期の水準を下回ったことで一部相殺された。

² 非連結子会社および関連会社の損失、税金を計上する前の利益

³ 出典：トムソン・ファイナンシャル・セキュリティーズ・データ 2003 年 3 月 1 日 2003 年 5 月 31 日、2004 年 3 月 1 日 2004 年 5 月 31 日

⁴ 出典：トムソン・ファイナンシャル・セキュリティーズ・データ 2004 年 1 月 1 日 2004 年 5 月 31 日

個人投資家向け証券業務

個人投資家向け証券業務の税引き前利益は 2003 年第 2 四半期の 6,200 万ドルから 2 倍以上の 1 億 3,200 万ドルとなった。

- 純収入は前年同期比 21%増の 12 億ドルとなった。資産水準の拡大を受け、資産運用、販売、管理手数料が 38%増加し、株式商品における個人投資家の取引活発化を受けて手数料収入が 18%増加した。
- 純収入の拡大に伴う人件費とサブアドバイザー手数料の増加および法務・規制関連コストの増加により、非金利費用は 15%増の 11 億ドルとなった。
- 総顧客預り資産は 5,790 億ドルと、前年同期比 9%増加したが、前期実績を 3%下回った。手数料ベース口座の顧客預り資産は 1,450 億ドルと、過去 12 ヶ月間に 28%増加し、総顧客預り資産に占める比率は前年同期の 21%から 25%に上昇した。
- 第 2 四半期末時点のファイナンシャル・アドバイザーの総数(グローバル・ベース)は 10,722 人と、前期比 110 人、前年同期比 922 人減少した。

資産運用業務

資産運用業務の税引き前利益は、前年同期比 71%増の 2 億 900 万ドルとなった。平均預り運用資産の増加と株式相場上昇による資産構成の改善、運用益の増加を背景に、純収入は 24%増の 6 億 9,000 万ドルとなった。非金利収入は、人件費とサブアドバイザー手数料の増加を受けて、10%増の 4 億 8,100 万ドルとなった。

- 資産運用業務部門の預り運用資産は 3,840 億ドルと、前期比 40 億ドル、前年同期比 480 億ドル増加した。相場下落で一部打ち消されたものの、純資金流入額がプラスとなったことが寄与し、前期を上回る実績を確保した。また、相場上昇と純資金流入額の増加により、前年同期水準を上回った。
- 個人投資家からの預り資産は前期比 50 億ドル減、前年同期比 100 億ドル増の 1,950 億ドルとなった。機関投資家からの預り資産は、Morgan Stanley Institutional Liquidity ファンドの販売と大型の新規受託が貢献し、前期比 90 億ドル増、前年同期比 380 億ドル増の 1,890 億ドルとなった。
- 同社は、モーニングスターの上位 2 ランクのいずれかに格付けされている米国内ファンド数が 40 本と、総合的なサービスを提供している証券会社においてトップである。⁵ 加えて、リップリー・ランキングの上位半分に占める同社ファンドの資産の比率は、単年度で 68%、3 年間で 65%、5 年間で 77%だった。⁶
- プライベート・エクイティの運用益は前年同期の 1,300 万ドルから 6,000 万ドルに増加した。

⁵ 総合的なサービスを提供している証券会社には、同社の他に 2004 年 5 月 31 日時点でメリルリンチ、シティグループ、ブルデンシャルが含まれる。

⁶ 2004 年 5 月 31 日までの 1 年間、3 年間、5 年間。

クレジット サービス業務

クレジット サービス業務の税引き前利益は、前年同期の 3 億 200 万ドルから 2 億 9,800 万ドルに減少した。信用の質の向上を背景に貸倒引当金は減少したものの、純金利収入の落ち込みと加盟店およびカード加入者の手数料収入の減少により打ち消された。

- 第 2 四半期末時点のクレジットカードの管理債権は 468 億ドルと、前年同期比 8%減となったが、これは残高振替の減少と返済率の上昇が主な原因である。管理債権ベースの純金利収

入は6,900万ドル減少したが、資金調達コストの縮小が利回り低下を十二分に補ったため、金利スプレッドは前年同期水準から28ベースポイント拡大して9.06%となった。

- 加盟店およびカード加入者の手数料収入は、延滞料と利用限度額超過手数料が減少し、カード加入者への還元が増加したため前年同期比11%減の4億6,700万ドルとなった。手数料の減少はクレジットカードの延滞率が大幅に低下したことが原因である。
- 売上高の増加が残高振替の減少で一部打ち消され、取扱高は2%増の244億ドルとなった。
- クレジットカードの管理債権の純貸倒償却率は6.48%と、前年同期比2ベースポイント低下したが、前期比では17ベースポイント上昇した。純貸倒償却率が前年同期水準を下回ったのは、クレジットカードの平均管理債権残高が42億ドル減少したことで一部打ち消されたものの、純貸倒償却額が減少したためである。純貸倒償却率が前期比で上昇したのも、クレジットカードの平均管理債権残高が減少し、米国の個人破産の申請件数が季節要因から増加したことが原因である。
- 管理債権の30日以上延滞債権比率は4.88%と、前年同期比133ベースポイント、前期比92ベースポイント低下した。90日以上延滞債権比率は前年同期比61ベースポイント、前期比46ベースポイント低下して2.40%となった。
- 期中に、ディスカバーカードに登録した加盟店は29万4,000店と、四半期ベースの最高記録を更新した。

モルガン・スタンレーが2003年度末以降に実施した自社株買いは、2004年5月31日時点で普通株式300万株に達した。同社取締役会は四半期ベースで普通株一株当たり0.25ドルの配当を行うと発表した。配当金は2004年7月9日時点の普通株主に対し、2004年7月30日付けで支払われる。

2004年5月31日時点の総資本は1,001億ドル(普通株式およびキャピタル・トラストに対して発行された劣後債299億ドルを含む)、発行済株式数11億株に基づく普通株式一株当たり簿価は24.59ドルである。

モルガン・スタンレーはグローバルな総合金融サービス企業であり、証券、資産運用、クレジット・サービス業務において、市場のリーダー的存在である。現在、世界27カ国に600以上のオフィスを擁する同社は、人、アイデア、資本をつなぐグローバル・ネットワークを最大限に活かし、世界中の顧客に質の高い金融商品およびサービスを提供している。

本プレスリリースは同社ウェブ・サイト(www.morganstanley.com)上でも公開している。

###

このプレス・リリースには予想的見解が含まれている可能性がある。予想的見解は、経営者の信念と期待を反映したものであり、実際の結果が経営者の予想と異なるリスクおよび不確実性が存在する。実際の結果に重要な影響を与え得る潜在的なリスクおよび不確実性に関しては、フォーム10-Kに基づく2003年度同社年次報告書のPart I, Item1の直前に記載されている「予想的見解」の項、同報告書Part II, Item7「経営者による財務状況と業績の説明ならびに分析」セクション内の「業績に影響を及ぼした各種要因について」、同報告書Part I, Item1内に記載されている「市場の競争」および「各種規制」の項、およびフォーム10-Qに基づく2004年度の同社四半期報告書の「経営者による財務状況と業績の説明ならびに分析」を参照されたい。